

2025年 4月 浜松聖書集会のご案内

(時間：午前10時～正午)

○3月30日 37号室に変更 昼食を共にして、笹井あかねさんの送別会を開きます

○4月6日(日) イースター集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)

司会：武井 陽一

聖書講話：コリント前書 15書3～5節

「イエスの十字架・復活と贖罪信仰」

水戸 潔

感話会：(イースターを迎えて、1人5分程度の感話)

○4月13日(日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)

司会：溝口 春江

聖書講話：ヨハネの黙示録 20章

「最後の審判 万人救済の望み」

武井 陽一

○4月27日(日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)

司会・感話：永井 徹

聖書講話：マタイによる福音書 4章1～11節 (1995年3月12日 テープ)

「イエス、荒野の試みを受ける」

溝口 正

「小羊の婚宴」 ヨハネの黙示録19章6～8節

溝口 正

我々のような罪人が赦され、清められるのは、十字架のキリストの血のあがないしかあり得ない。それゆえ、信徒たちは、そのあがないの麻の衣を着せられて、聖なる者として、はじめて清く輝くことができる。…ところが天使の声は、信徒に着せられた麻の衣が「聖なる正しい者たちの行いである」と明白に告げる。これは、信徒が神の国に、主の花嫁として迎え入れられるためには、「正しい行い」が必要である、ということにはほかならない。とすれば「正しい行い」のできない罪人である私は、一瞬、この言葉の前に立ち止まり、自分が御国に入る資格なき不適格者であることに深い不安と恐怖を覚えざるを得ない。何という恐ろしい言葉であろうか。

しかし、ここにおいても私は、なりふりかまわず十字架の主の足下に馳せ参じて、罪のゆるしを乞い願う以外に道を知らない。すでに述べたように、罪人が「聖なる者」と呼ばれるためには、キリストによる罪のあがないが絶対不可欠である。そのゆえにこそ神の御子キリストは、地上の人となられ、十字架にかけられてあがないの血を流されたのではないか。私はこの救いの御業を心から信受するとき、涙が溢れ感謝と喜びの平安に包まれて立ち上がることができる。私はこの信仰から「正しい行い」とは、主のあがないにあずかる感謝と喜びによって示される御心に服従しつつ、毎日の生活を平安に生きることではないかと考えている。あがないなくして正しい行いはあり得ない。すべての行いは、あがなわれて「正しい行い」となるであろう。信仰と服従(行い)とは一体であると、現在の私には示されている。

(1999年3月『復活』第388号)